

# 富山市教育委員会 1 月定例会 資料



「令和元年度富山市中学校3年生学力調査」  
結果の概要

令和2年1月27日(月)

富山市教育委員会

# 「令和元年度富山市中学校3年生学力調査」結果の概要について

## I 本調査の目的

- ・各中学校が、3学年生徒の2学期終了時の学力定着状況について、実証データに基づいて把握し、今後の学習指導の改善・充実に生かす。
- ・生徒一人一人が、自分の努力すべき課題に向かって意欲的に学習に取り組むよう進路指導資料として活用する。

## II 実施状況

- 1 実施期日 令和元年12月3日(火)、4日(水)
- 2 調査教科 国語、社会、数学、理科、英語
- 3 実施学校数・生徒数

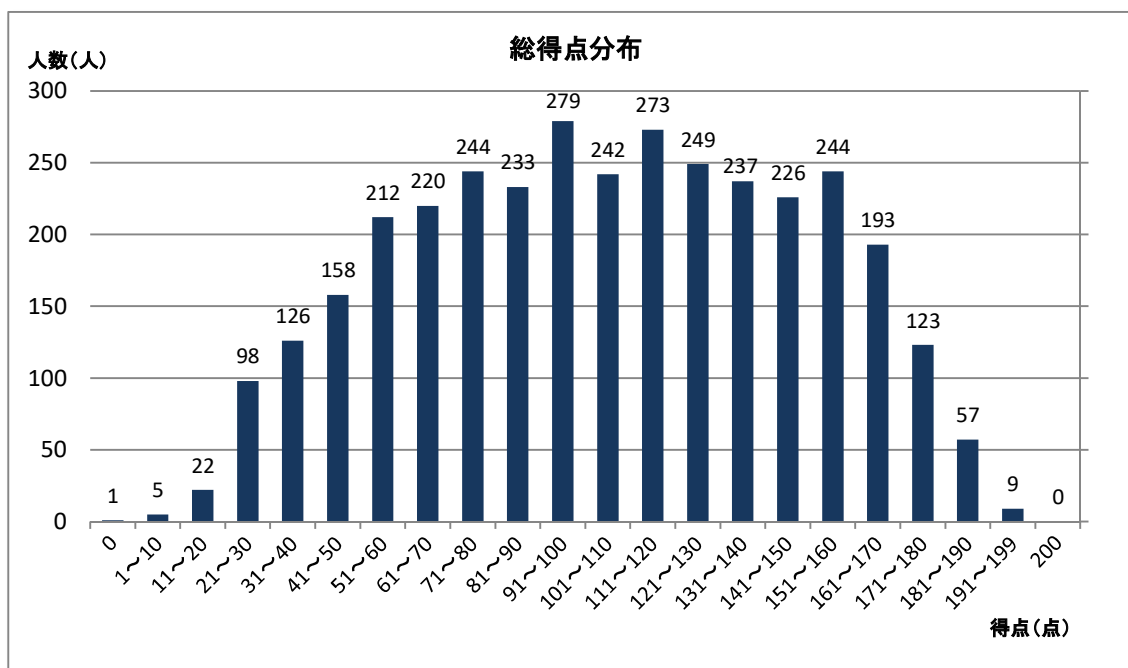
実施学校数	生徒数	
27校1分校 附属中を含む	在籍数	3,696人
	受検者数	3,451人 (5教科全てを受検した生徒数)

## III 結果の概況

- 1 教科別全生徒平均点

国語	社会	数学	理科	英語	総得点
21.4点	21.9点	22.5点	18.8点	20.1点	105.1点

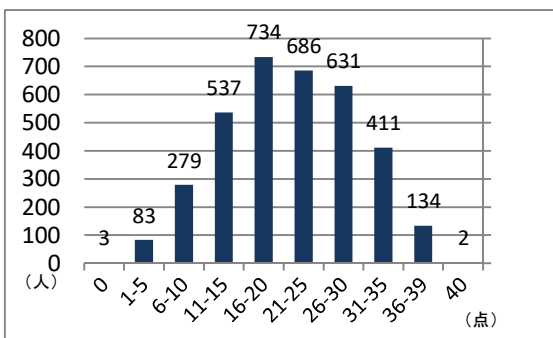
- 2 総得点分布グラフ



### 3 教科別得点分布グラフ

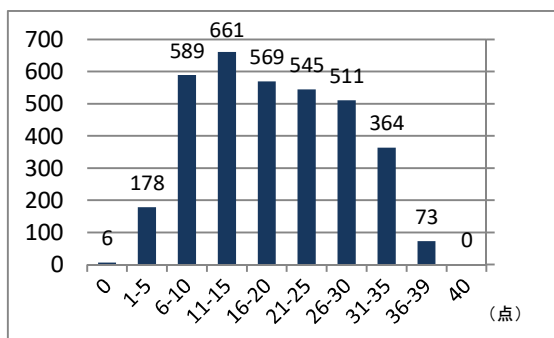
#### 国語

平均点 21.4点 受検者数 3,500人



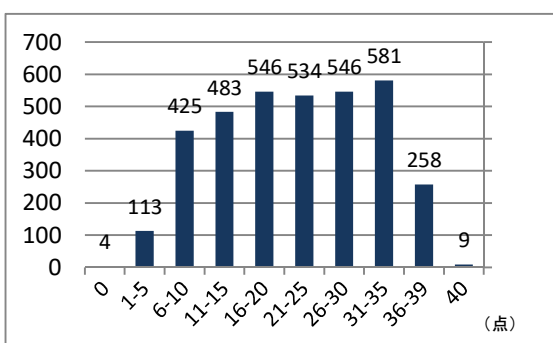
#### 理科

平均点 18.8点 受検者数 3,496人



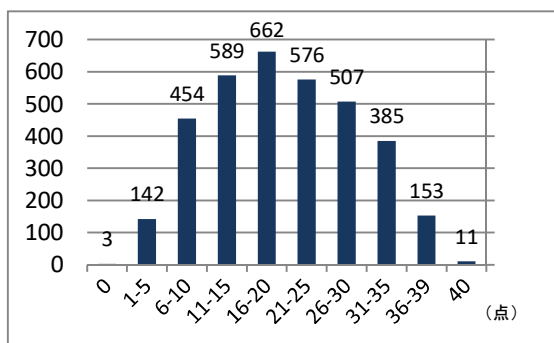
#### 社会

平均点 21.9点 受検者数 3,499人



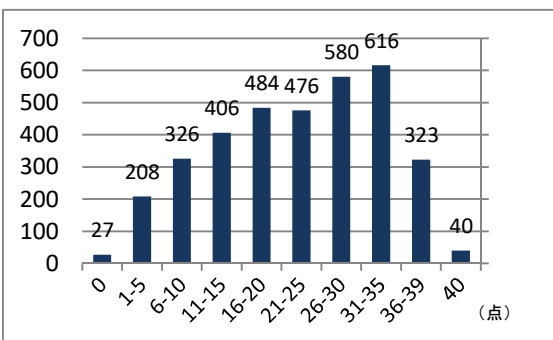
#### 英語

平均点 20.1点 受検者数 3,482人



#### 数学

平均点 22.5点 受検者数 3,486人



## IV 結果の概要

### 1 抽出調査について

27中学校の各学級8人(男子4名、女子4名)をそれぞれ出席番号の早い順に1番から4番まで抽出生徒の記録としてデータを取る。欠席の場合は、出席番号を繰り上げて、必ず各学級から8人の抽出を行うものとした。

### 2 抽出生徒数

学校数	学級数	抽出生徒数
27校	104学級	827人

(附属中含む)

## V 各教科の概要

### 1 教科の考察

#### (1) 教科全体から見た結果

「得点分布グラフ」「観点別の解答率グラフ」から読み取れる教科全体の概要について、その特徴を表記する。

#### (2) 正答率の高い問題

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率の高い問題について、考察を行う。

#### (3) 読解力と正答率の関連について

「設問別正答率表・グラフ」から読み取れる、正答率と読解力との関連について、実際の問題の一部を提示しながら考察を行う。

### 2 今後の指導

1の(3)で考察した読解力の視点も含め、今後の指導の工夫について表記する。

## IV 読解力の視点からの考察

### 1 読解力

読解力とは、一般的には、例えば主語と述語の関係や、「それ」などの指示語が何を指しているのかなど、文章で表された情報を的確に理解する力である。

また、「PISA型読解力」は、一般的な文字や文章といった「連続型テキスト」の理解だけでなく、グラフや図表、地図など様々な資料（「非連続型テキスト」）を理解し、利用し、評価し、熟考する力であるとされている。（下線部は2018年度調査から追加）

### 2 読解力の視点からみえる課題

国語で最も正答率が低かった問題は、「ユウシュウの美を飾る」の下線部の漢字を問うもの（正答：「有終」）で、正答率は8.5%であった。「ユウシュウ」という読み方から、「優秀」と書いたものが多いと考えられる。また、説明的な文章の空欄に当てはまる接続詞を問うもの（「しかし」「だから」「ところが」など）の正答率は62.5%であり、ある程度理解できていた。一方、文学的な文章を二つの場面に分ける部分を問う問題では、正答率が12.2%であった。

各教科の教科書を正しく読み、理解するためには、語彙の量や語感を豊かにしたり、接続詞を適切に使ったりして、段落間のつながりを読み取る力が基盤となる。今後、言語能力を高めることも、各教科の内容の理解と合わせて重要であることを意識して指導にあたる必要がある。

### 3 読解力の向上に向けた今後の指導

#### ・活字に触れる経験を増やす

PISAの読解力調査結果では、SNSの普及により、日常的に単語や略語、感情を表す「スタンプ」など使い、感情等を言葉で表現する機会が減っていることが指摘されている。一方で、読解する力が高い人は、普段から活字に触れる経験が多く、語彙力も高いとされている。

学校では、学習する教科書の本文をあらかじめ読む、知らない言葉をノートに書き出し辞書で調べる、新聞から気になる記事を選び、ノートに正確に視写するなど、今後も引き続き、活字に触れる経験を増やすことが必要である。

#### ・知識を関連づける（文と図、グラフ、表などをつなぐ）

社会科では、瀬戸内の気候は、中国・四国地方の断面図から、夏も冬も季節風が山地にぶつかることが分かり、年間を通して乾燥しているため、降水量が少ない雨温図とつなげて考える。また理科では、先生と生徒の対話文から、減数分裂による生殖細胞は、もとの細胞と比べ、「染色体」の数が半分になっているため、遺伝子の組み合わせは、AA、Aa、aaの3通りとなり、個数の割合（AA:Aa:aa=1:2:1）とつなげて考える。

この2例のように、学んだことをつないで考えることが、実社会で活かすことができる汎用性の高い知識につながる。学んだ知識同士がどのようにつながっているのか、日頃の授業でも関連づけて考えるような課題を示すなど、知識同士のつながりを大切にしたい授業を行う必要がある。

## VII 中1学力調査との比較からの成果と課題

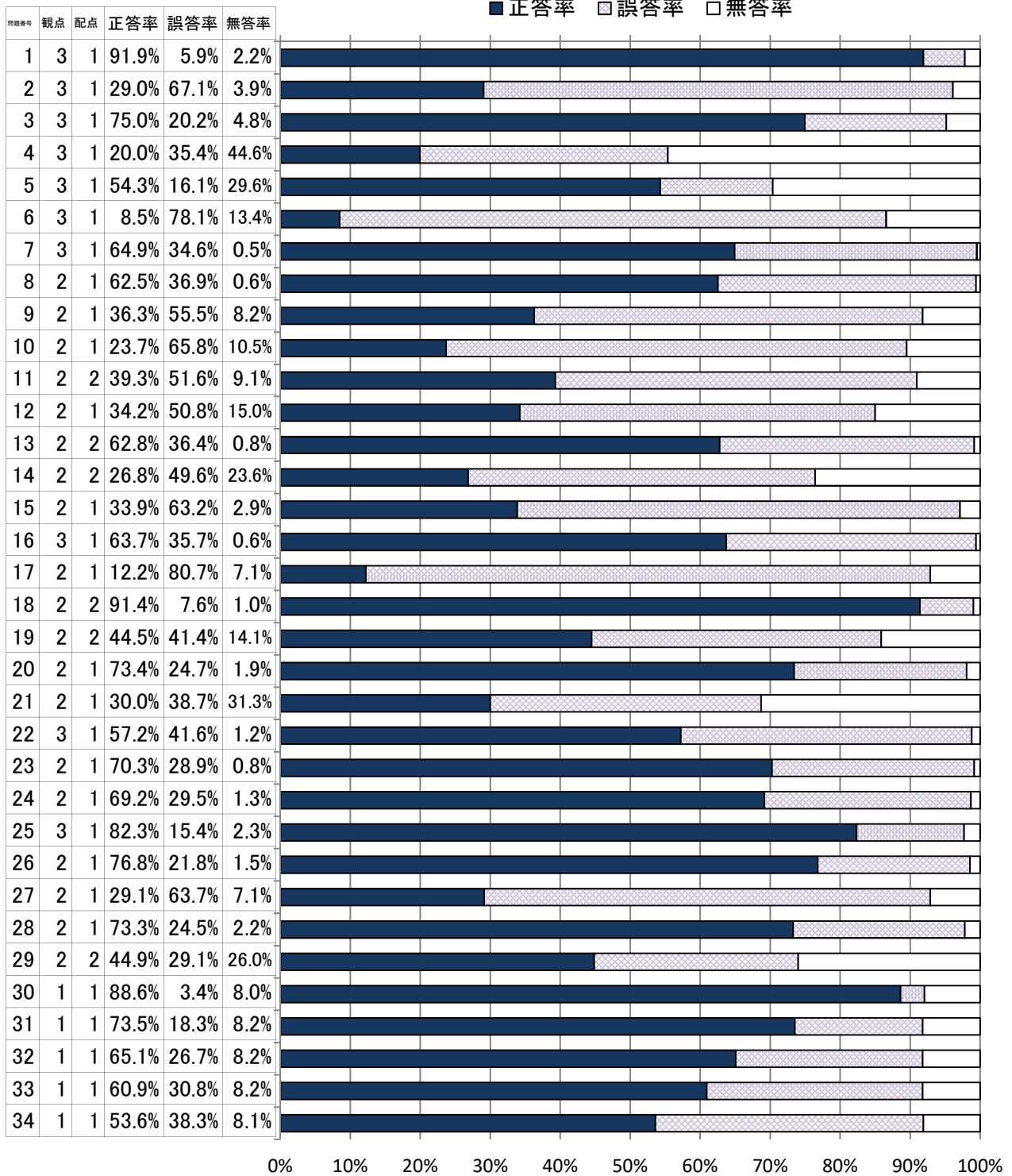
今回の調査では、入学時の中1学力調査の結果と比べ、難易度が上がっているため、全体的に正答率は低い。しかし、国語科では、書く力、読む力、言語に関する力を相対的に比べると、書く力の正答率が68.3%と一番高い。自分の意見を根拠を明確にして述べるなど書く活動を丁寧に行った成果と考えられる。

一方、国語科では書く力が高いのに、他教科では記述問題の正答率が低い。今後も教科の特質に応じた言語活動を行うことで、教科の学びを支える言語能力を身につけ、知識同士を関連づけて理解することで、知識を活用する力を高めていく必要がある。

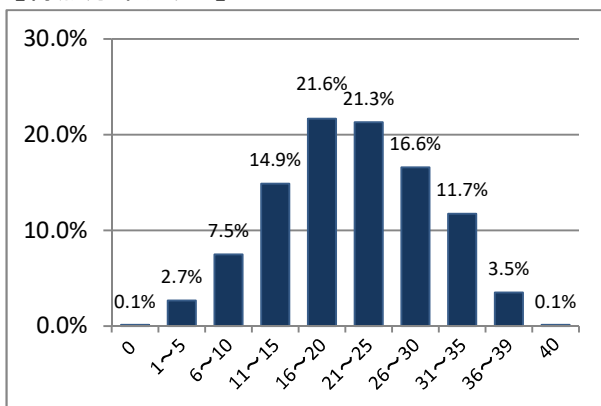
VI 抽出生徒から分析する各教科の概要

**国語**      抽出生徒数 827人      抽出平均 21.3点

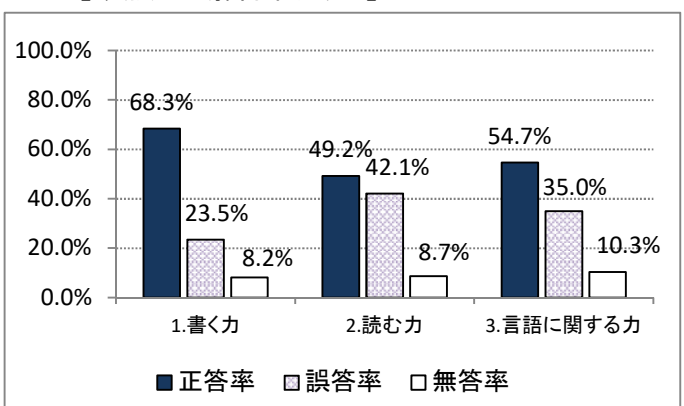
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 国語科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は21.3点である。観点別の正答率は「書く力(68.3%)」に比べ、「言語に関する力(54.7%)」「読む力(49.2%)」が低く、特に「読む力(前年比-6.1%)」の低下が顕著であった。無答率10%以上の問題は9問(問題数全体の26.4%)であり、昨年度の7問から増加している。

### (2) 正答率の高い問題について

「書く力」では、作文を二段落構成で書くことや原稿用紙を正しく使うことの正答率が高く、形式を整えて書く力が身につけている。(通し番号30、31)

「読む力」では、文学的な文章において、登場人物の考えたことや、登場人物の言葉に込められた心情を文脈から解釈する問題の正答率が高い。(通し番号18、20)

### (3) 読解力と正答率の関連について

説明的な文章では、他の事物にたとえて表現されている部分について、その具体的内容を答える問題の正答率が23.7%と低かった。(通し番号10) たとえや言い換えが表す内容を正確にとらえたり、文章中の事物相互の関係性を正確に把握したりする力に課題が見られる。また、指定された言葉を使い、ある事柄について決められた字数で説明する問題では、正答率が26.8%と低く、さらに無答率が23.6%であった。(通し番号14) 問われていることに答えるために必要な答えの基となる記述を見つける力や、それを求められている字数に要約して答える力に課題があると思われる。

文学的な文章では、場面が転換する部分を答える問題の正答率が12.2%と非常に低かった。(通し番号17) 今回の文章では、後半の文章が前半部分を回想する会話文から始まっているため、誤答率が高くなったと考えられる。情景をイメージしながら読むこと、会話の背景にある登場人物の心情を正確にとらえることに課題がある。

(通し番号10)

①ほかの枝に飛び移ること、②元の太い幹まで戻ることとは、細胞の場合、それぞれどうなることを指しますか。それぞれ**十字程度**で書きなさい。

(通し番号17)

この文章を、二つの場面に分けるとすると、前半部分はどこまでですか。**前半部分の終わりの五字を文章中から抜き出し**なさい。

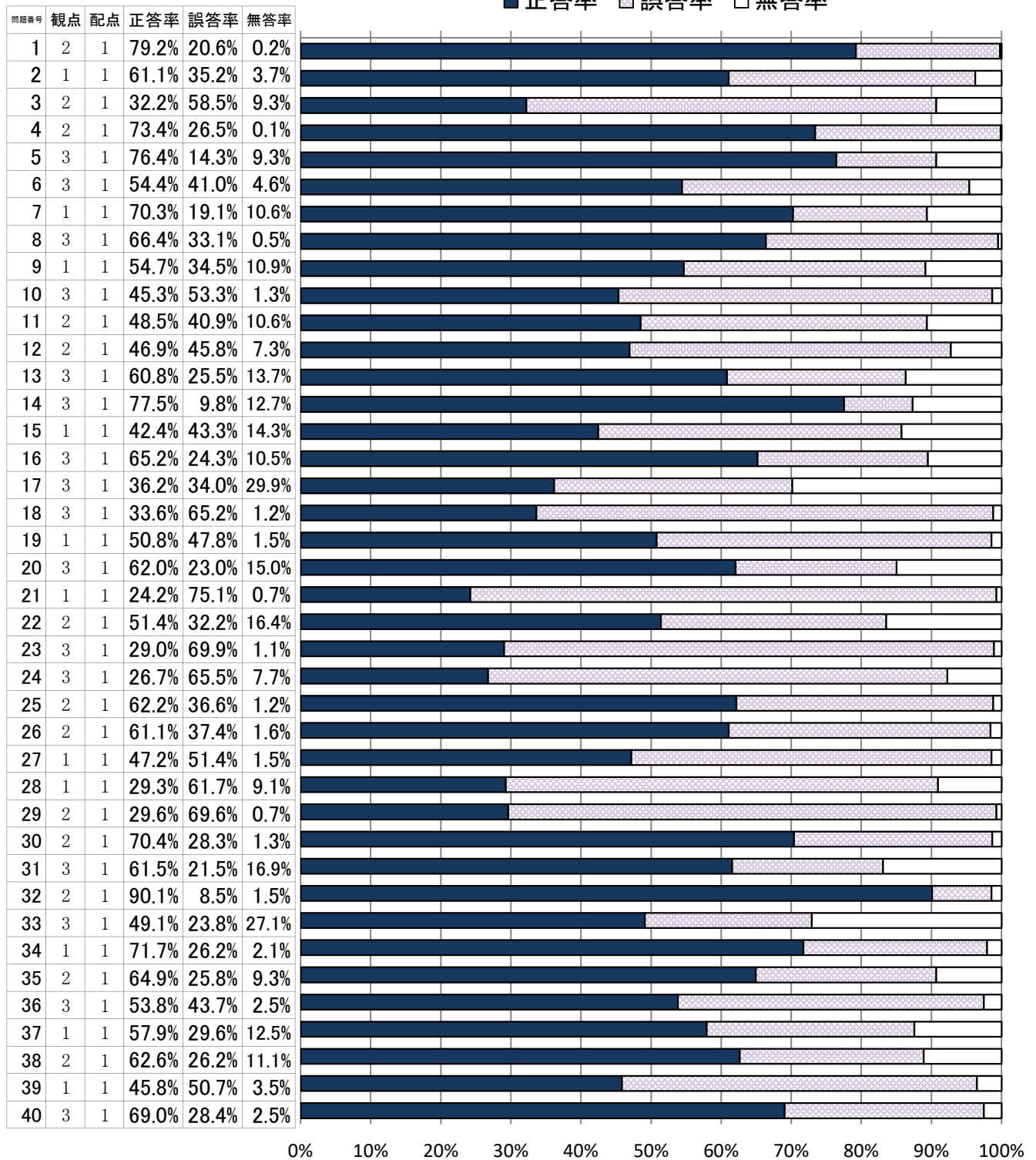
## 2 今後の授業に向けて

- (1) 説明的な文章を正確に読み解くためには、文章中の語彙や文同士の関連を正しく理解し、その関連性を図に示すなど、文章の構成や論の展開などを整理しながら読むことが大切である。また、普段から比喩的な表現や言い換えが用いられている部分を意図的に取り上げ比較するなど、多様な表現方法があることを理解する学習も必要である。
- (2) 文学的な文章を扱う授業では、登場人物の心情を読み解く視点として、情景や登場人物の視線や体の小さな動きなど、細かな描写に注目して読むことを大切にする。また、文章全体を俯瞰して構成をとらえながら読む指導を充実させる。
- (3) 説明の内容を正確にとらえたり、登場人物の心情を深く読み取ったりするためには、語彙に関する知識を豊かにすることが基盤となる。読書に親しむ態度を養い、多様な文体の文章にふれ、語感をみがいたり、ことわざや慣用句、故事成語等の反復学習を行ったりすることも効果的である。

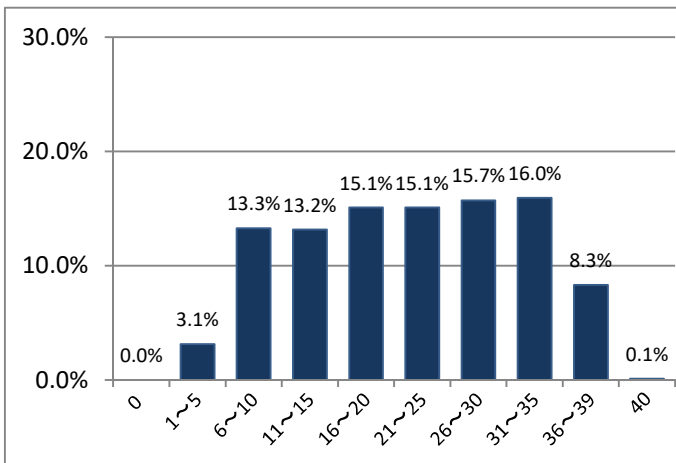


【設問別正答率表・グラフ】

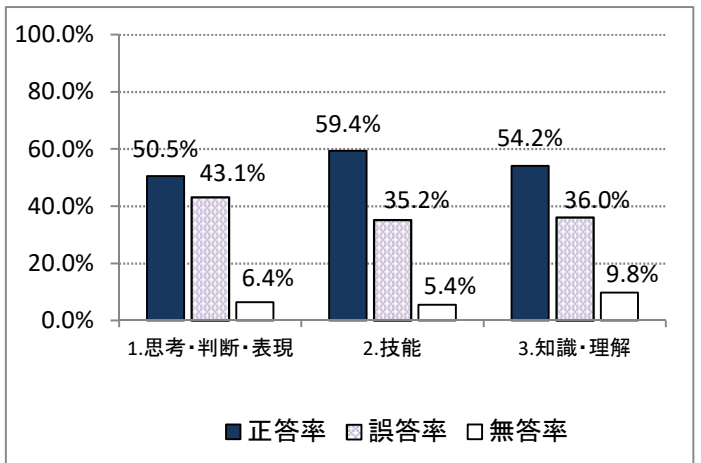
■ 正答率 □ 誤答率 □ 無答率



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



# 1 社会科の考察

## (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は21.9点である。観点別の正答率は、「技能」が59.4%（昨年度56.4%）、「知識・理解」が54.2%（昨年度50.9%）と昨年度に比べやや高くなった。一方、「思考・判断・表現」は正答率が50.5%と昨年度（53.0%）に比べてやや低くなった。無答率が10%を超えた問題は14問で、昨年度（6問）よりかなり増加した。歴史分野や漢字の用語、記述問題の無答が特に目立つ。

## (2) 正答率の高い問題について

「技能」では、赤道の位置や様々な気候帯に当てはまる雨温図を選んだり、写真と関連する新しい人権を選択したりする問題の正答率が高い。基礎的な知識に基づいて、正しく資料を読み取る力が育っている。（通し番号1、4、32）

「知識」では、EUやシルクロード等、基本的な事物の名称を答える問題の正答率が高い。（通し番号5、14）

## (3) 読解力と正答率の関連について

（通し番号29）

(2) 資料1のX市のように、少子高齢化が進む一方で、家族の形も多様化している。資料2から読み取ることができることとして正しいものを、次のア～エから1つ選び、記号で答えなさい。

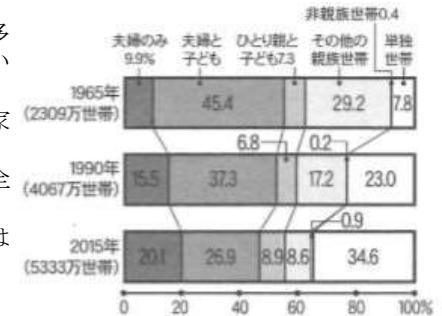
ア 1965年で割合が最も高いのは核家族世帯だが、2015年では核家族世帯の割合よりも単独世帯の割合の方が高い。

イ 1965年から2015年までの50年間で、常に核家族世帯の割合が全体の半分以上を占めている。

ウ 1965年から2015年までの50年間で、夫婦と子どもの世帯数は減少したが、単独世帯数は増加した。

エ 1990年の家族類型のうち、1965年と比べて数が減少したのは、3種類である。

資料2 家族類型別世帯数の推移



（東京書籍 新しい社会公民）

割合を問うア、イは、核家族世帯に該当する家族構成を理解した上で資料2から割合を読み取り、たし算をして正誤を判断する必要がある。世帯数を問うウ、エは、全世帯数と家族類型別世帯数の割合を読み取り、かけ算をして正誤を判断する必要がある。誤答の理由としては、割合ではなく世帯数を問われていることに気づけなかったり、計算から世帯数を求めることが難しかったりしたことが考えられる。

## 2 今後の授業に向けて

(1) 資料から課題に照らし、必要な情報を読み取り、その解釈の正しさを根拠を基に話し合う活動を取り入れることで、生徒が社会的事象の意味や特色を多様な視点から理解するとともに、情報を効果的に調べ、まとめる技能を高めることが必要である。

(2) 歴史分野では、「平清盛」等の用語や歴史的事象の順序を答える問題の正答率が低かった。人物の業績の理解が一面的であったり、歴史的事象の背景を十分にとらえていないため、答えられないと考えられる。したがって、「いつおこったか」「前の時代とどのように変わったか」「なぜおこったか」「どのような影響を及ぼしたか」など、歴史的事象を多面的・多角的に考察する学習活動を取り入れることで、単なる言葉を記憶するというのではなく、それら相互のつながりを理解した学習になるよう努める必要がある。

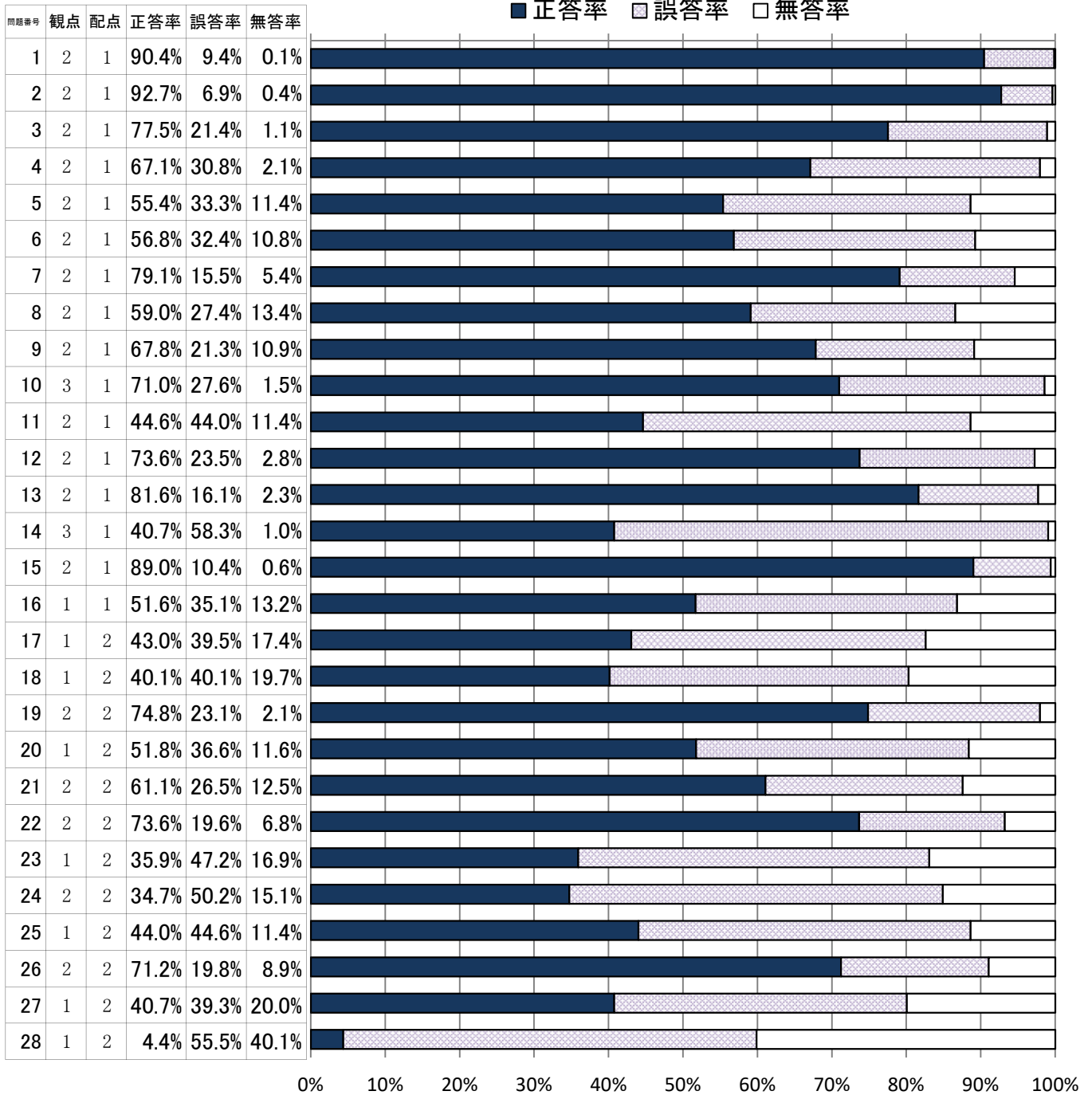
(3) 記述する力などの表現力育成のためには、授業では資料から分かることや自分の考えを友達に説明したり、ノートに書くなど、言語化したり、文章化したりすることが大切である。また、授業のまとめや振り返りを自分の言葉で書く活動を取り入れることで、自分自身がどこまで理解できているのかを自覚することができ、表現力の育成にもつながる。

# 数 学

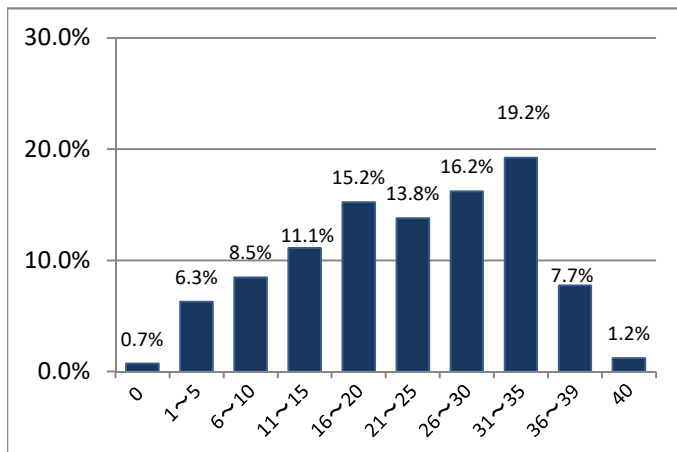
抽出生徒数 827人

抽出平均 22.5点

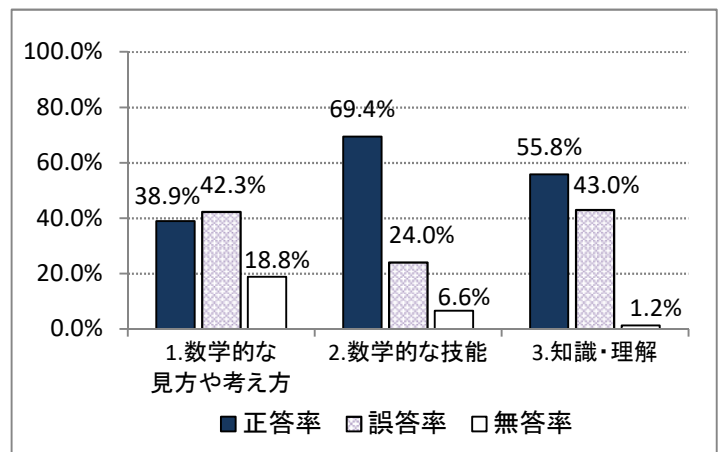
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 数学科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は22.5点である。観点別でみると、「数学的な技能」の正答率が65%を超えているのに対して、「数量や図形等についての知識・理解」の正答率が55.8%、「数学的な見方や考え方」の正答率は38.9%と低い。全観点において、昨年度（正答率25.1%）より正答率が上がったが、無答率が10%以上の問題は15問と、昨年より3問増加している。

### (2) 正答率の高い問題について

「数と式」領域では、正負の数の計算、文字式の計算、根号を含む式の計算、連立方程式や二次方程式を解く問題、規則性をとらえて具体的な数を求める問題の正答率が高い。

（通し番号1、2、3、7、10、15）。「図形」領域では、空間における面の関係や、三角形の和の性質から角の大きさを求める問題、三角形と比の定理を用いて長さを求める問題の正答率が高い。（通し番号10、12、13）。「関数」領域では、列車が進む様子を一次関数のグラフに表したり、関数 $y=ax^2$ の変域を求めたりする問題の正答率が高い。（通し番号22、26）

### (3) 読解力と正答率の関連について

グルメまつりをテーマにした「資料の活用」領域の問題では、条件に合うメニューの組み合わせを数える問題の正答率が74.8%、無答率が2.1%であるのに対し、割引サービスを受ける場合について条件に合う確率を求める問題では、正答率が51.8%、無答率が11.6%と誤答率、無答率ともに高い。後出の問題では、サービスを受けるためのルールの説明が長文であることに加え、複数の資料を用いて条件が示されていたことから、通常の価格より50円以上割引になる確率を求める問題であることを理解できなかった生徒が多かったと考えられる。（通し番号19、20）

#### (通し番号20)

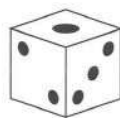
- (2) たかしくんは図1のメニューの中から、えびバーガーと梨ゼリーを1つずつ買うことにしました。すると、今だけ下の【ルール】で示されたサービスを受けることができることを知りました。

#### 【ルール】

- ① 図2のような、10、20、30、40とかかれたルーレットを1回まわす。



図3



- ② 図3のような、1～6がかかれたさいころを1回投げる。

- ③ ルーレットをまわして針がさした数と、さいころを投げて出た目の積が値引きの金額になる。

例えば、ルーレットが30をさし、さいころの目が5であったとき、 $30 \times 5 = 150$ 円が代金から値引きされる。

たかしくんが、このサービスを受けたとき、代金が900円以下になる確率を求めなさい。

図1

#### とやまグルメまつり メニュー

##### 料理

*えびバーガー	550円
*いかカレー	800円
*黒ラーメン	700円
*海鮮丼	900円

##### デザート

*梨ゼリー	400円
*ぶどうシャーベット	350円
*りんごタルト	200円

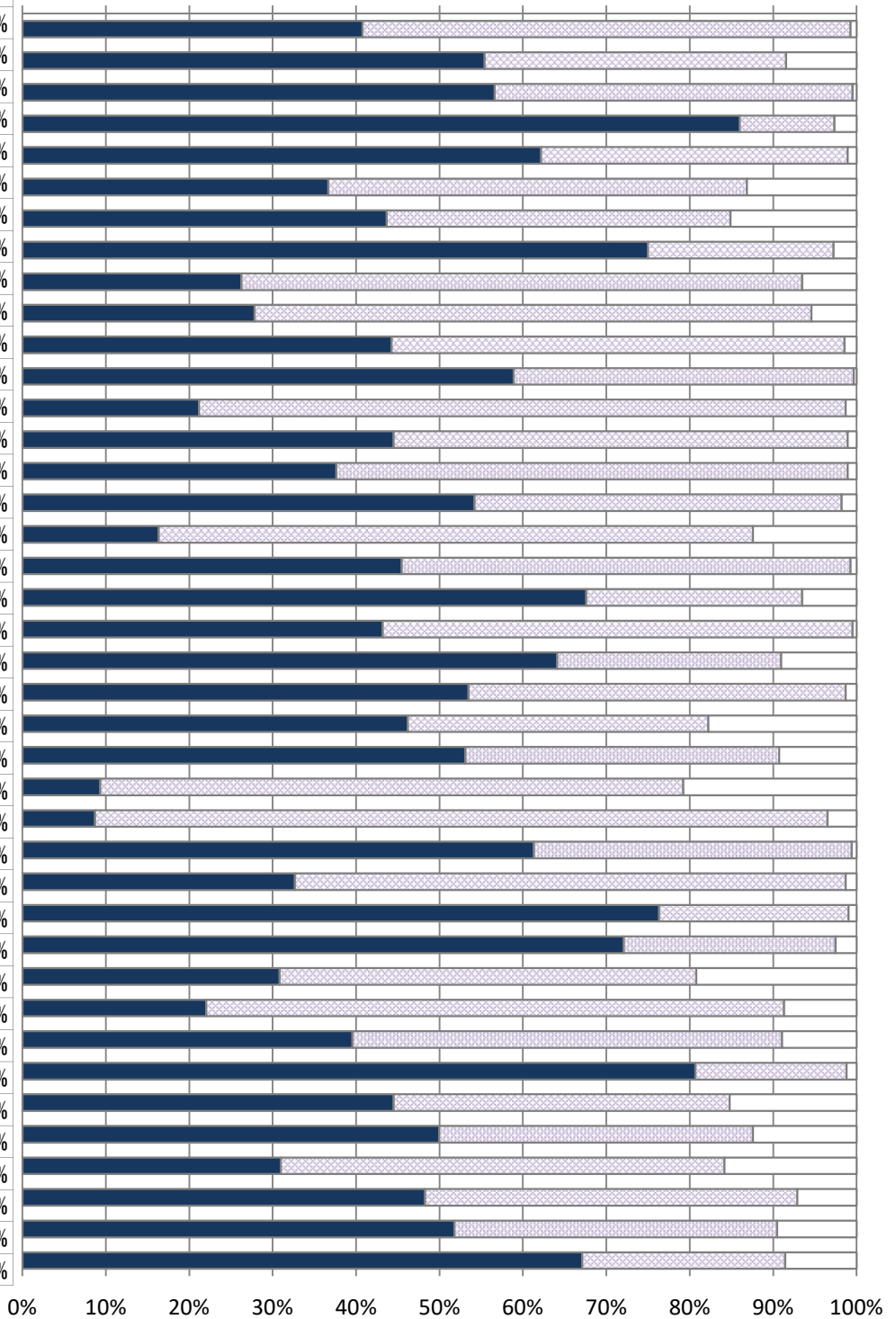
## 2 今後の授業に向けて

- (1) 「図形」領域の学習では、観察、操作や実験等を通して図形の基本的な性質を見いだす学習を大切にするとともに、図に印をつけたり抜き出したりするなど、思考の過程を可視化し、既習事項を活用して解決するための指導の工夫が必要である。
- (2) 「関数」領域の学習では、表、式、グラフを相互に関連づけて関数の特徴を考察したり、座標を結んでできる図形の面積を求めたりするなど、基礎的な知識や技能を活用して発展的・応用的に考える学習を継続して取り入れることが求められる。
- (3) 「数学的な見方や考え方」育成のために、授業では日ごろから生徒の日常生活と関する資料を扱い、様々な文脈や状況の中で情報を取り出して既習事項を活用して解決の方針を立て、式、図、表、グラフなどを活用して解釈する学習活動を行うことが大切である。問題解決の方法や手順について、根拠を明確にして他者に伝え合う場面を設定したり、結果の妥当性を見直したりすることも効果的である。

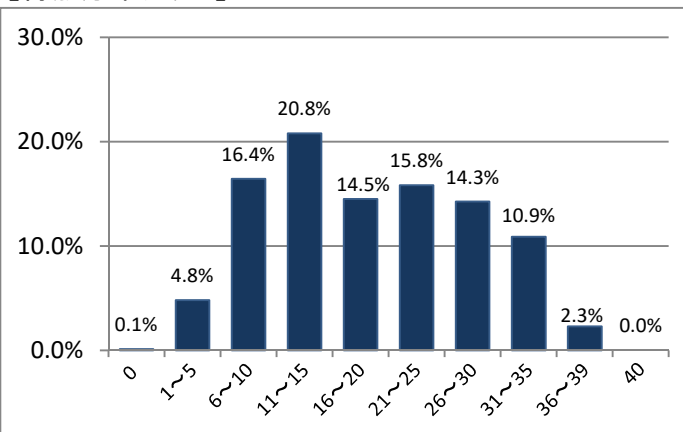
【設問別正答率表・グラフ】

問題番号	観点	配点	正答率	誤答率	無答率
1	3	1	40.7%	58.5%	0.7%
2	1	1	55.4%	36.2%	8.5%
3	3	1	56.6%	42.9%	0.5%
4	3	1	86.0%	11.4%	2.7%
5	3	1	62.2%	36.8%	1.1%
6	1	1	36.6%	50.2%	13.2%
7	2	1	43.7%	41.2%	15.1%
8	2	1	75.0%	22.2%	2.8%
9	1	1	26.2%	67.2%	6.5%
10	1	1	27.8%	66.7%	5.4%
11	1	1	44.3%	54.3%	1.5%
12	3	1	58.9%	40.7%	0.4%
13	2	1	21.2%	77.5%	1.3%
14	3	1	44.5%	54.4%	1.1%
15	1	1	37.6%	61.3%	1.1%
16	2	1	54.2%	44.0%	1.8%
17	1	1	16.3%	71.2%	12.5%
18	3	1	45.5%	53.8%	0.7%
19	3	1	67.6%	25.9%	6.5%
20	3	1	43.2%	56.3%	0.5%
21	1	1	64.1%	26.8%	9.1%
22	2	1	53.4%	45.2%	1.3%
23	2	1	46.2%	36.0%	17.8%
24	1	1	53.1%	37.6%	9.3%
25	2	1	9.3%	69.9%	20.8%
26	1	1	8.7%	87.8%	3.5%
27	3	1	61.3%	38.1%	0.6%
28	1	1	32.6%	66.0%	1.3%
29	3	1	76.3%	22.7%	1.0%
30	1	1	72.1%	25.4%	2.5%
31	3	1	30.8%	49.9%	19.2%
32	1	1	22.0%	69.3%	8.7%
33	3	1	39.5%	51.5%	8.9%
34	1	1	80.7%	18.1%	1.2%
35	3	1	44.5%	40.3%	15.2%
36	2	1	49.9%	37.6%	12.5%
37	2	1	31.0%	53.2%	15.8%
38	2	1	48.2%	44.6%	7.1%
39	1	1	51.8%	38.7%	9.6%
40	1	1	67.1%	24.3%	8.6%

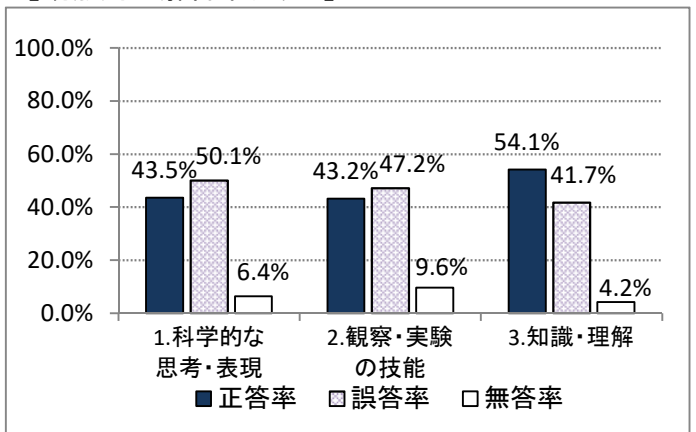
■ 正答率 ■ 誤答率 □ 無答率



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 理科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 18.9 点であり、観点別でみると、「科学的な思考・判断」の正答率が 43.5%、「観察・実験の技能」は 43.2%、「自然事象についての知識・理解」は 54.1%と、「自然事象についての知識・理解」のみが、5 割以上の正答率であった。無答率 10%以上の問題は 9 問（問題数全体の 22.5%）であり、昨年度の 4 問から倍増している。

### (2) 正答率の高い問題

「根、茎、葉にある管の集まりの名称」「遺伝子の組み合わせ」「ろ過の仕方」「電池をつくるときの電解質の水溶液」の正答率が 75%以上である。実験・観察を正しく行うなど、体験を通じた理解が、用語等の確実な習得や実験の操作、実験において使用する薬品の性質についての正しい理解につながっていると考えられる。（通し番号 4、8、29、34）

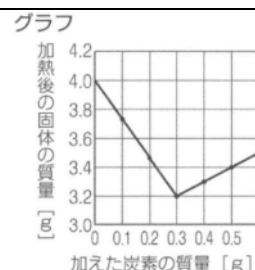
### (3) 読解力と正答率との関連

還元の実験で、加えた炭素の質量と発生した気体の質量をグラフに表す問題の正答率が 9.3%と低い。（通し番号 25）示されたグラフから反応に使われた気体の質量を計算し、それを発生した気体の質量に換算してグラフを作成することが求められている。解答には、まず何と何の関係をグラフに表しているのかを的確に読み取り、さらに、どのような化学反応が起きているかという理解も必要となる。しかし、化学変化を化学反応式で表す問題の無答率が 15%以上であることから、化学反応の理解についても十分ではないことが考えられる。（通し番号 23、31）

（通し番号 25）

（グラフは、加えた炭素の質量と加熱後に試験管 A に残った固体の質量の関係を示したものである。）

(4) この実験で発生する気体と炭素の質量との関係をグラフに表しなさい。



## 2 今後の授業に向けて

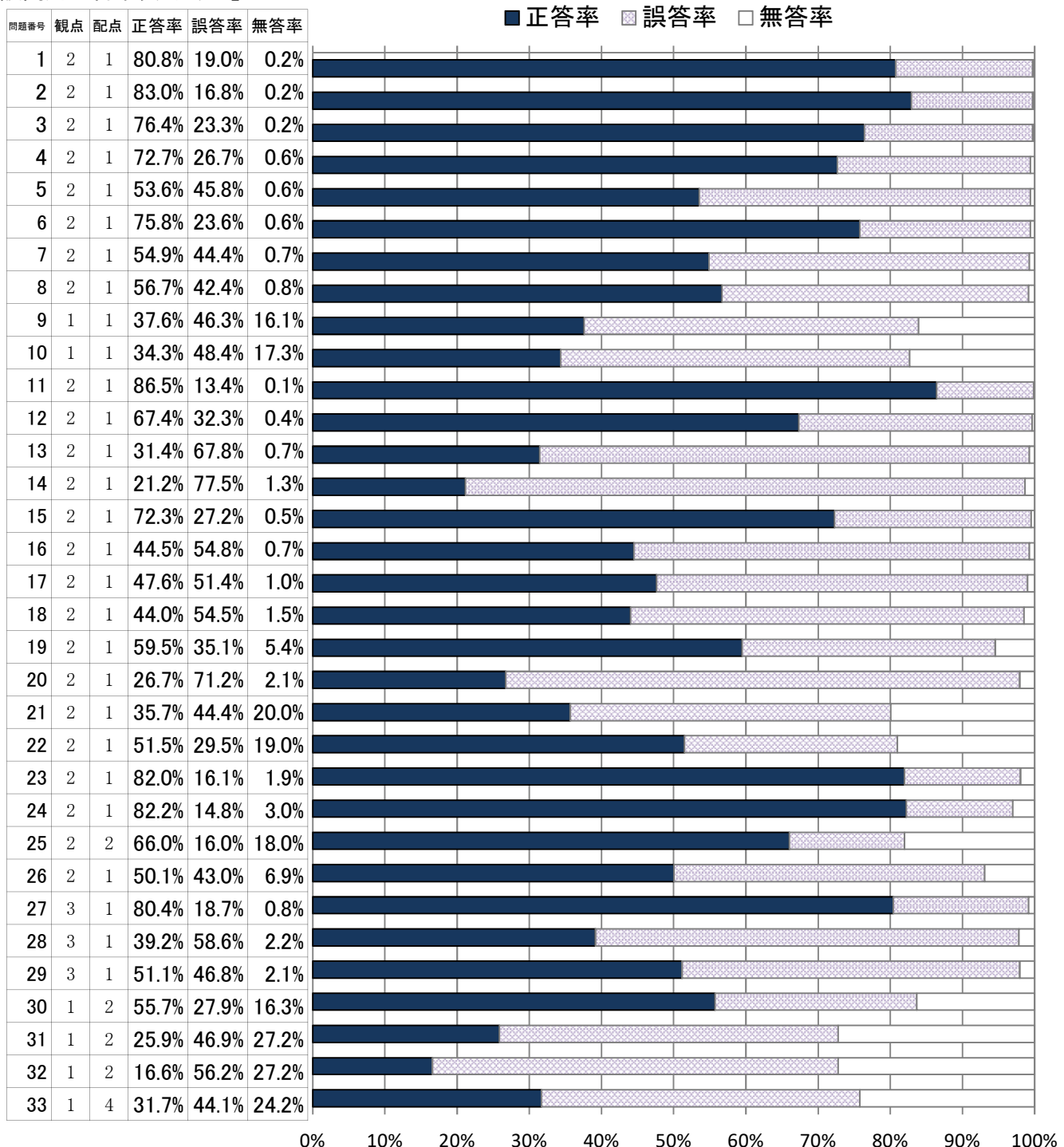
- (1) 「課題設定」において、生徒の気づきや疑問を大切にすることや、単元に応じて生徒が「検証計画の立案」を行うなどの機会を設けることで、主体的な問題解決となるように工夫する必要がある。
- (2) 観察・実験を行う際、「仮説の設定」を確実に行う（自分なりの予想をもつ）ことが、「考察・推論」を充実することにつながる。仮説に基づいた結果の分析・解釈を行うことが、全体を振り返って推論したり、改善策を考えたりするといった科学的に探究する力を育成することにつながる。
- (3) 化学反応の実験の例を挙げると、結果の処理の場面でグラフ化してまとめる場合、何と何の関係を表すグラフを作成するのか、それによって何が明らかになるのかを意識させることが大切である。また、化学変化と原子・分子のモデルといった知識を実験の過程と関連づけて説明する活動を繰り返し行うことで、化学反応における物質の質量変化や結合比といった量的な関係でとらえる見方がはぐくまれ、観察した現象のより深い理解につながると考えられる。

**英語**

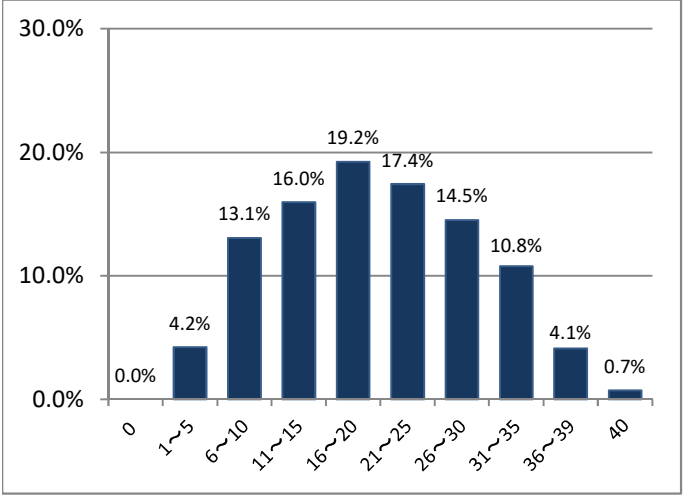
抽出生徒数 827人

抽出平均 20.2点

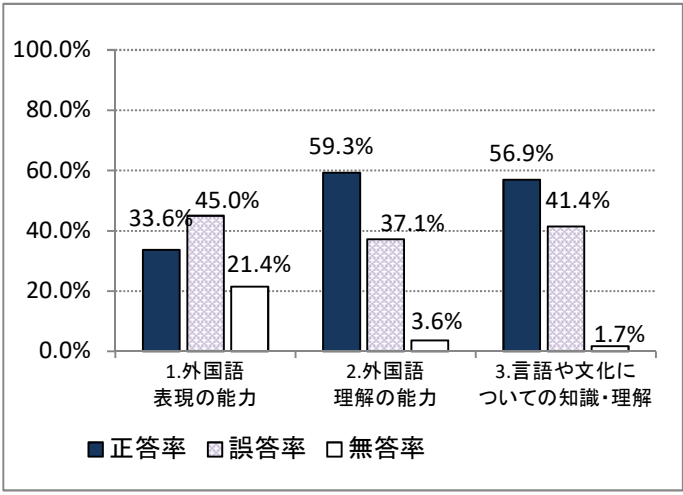
【設問別正答率表・グラフ】



【得点分布グラフ】



【観点別の解答率グラフ】



## 1 英語科の考察

### (1) 教科全体から見た結果

抽出平均点は 20.2 点である。観点別でみると、「外国語理解の能力」の正答率が 59.3%、「言語や文化についての知識・理解」の正答率が 56.9%に対し、「外国語表現の能力」が 33.6%と低い。また、「外国語表現の能力」の無答率が 21.4%であり、昨年度(18.9%)と比べやや高くなっている。

### (2) 正答率の高い問題

正答率が 70%を超えた問題は 10 問あり、そのうちの 9 問が「外国語理解の能力」の問題である。英文や対話文を聞いたり読んだりし、その内容の正誤について答える問題や文脈に合う語や英文を選ぶ問題の正答率が比較的高い。日ごろから内容的にまとまりのある英文を聞いたり、読んだりすることで、全体の概要や内容の要点をとらえることができている。(通し番号 1、2、3、4、6、11、15、23、24)

### (3) 読解力と正答率の関連について

アンケート結果についてまとめた英文を表と合わせて読み取る問題では、正答率が 80%を超えており、英文と表を結びつけて情報を正確に読み取る力がついている。(通し番号 23、24)

本文の概要を伝える英文に、適する語をあてはめる問題では、正答率が 35.7%、51.5%と低く、無答率が 20.0%、19.0%と高い。英文の概要を理解する力だけでなく、要約された英文が本文とほぼ同じ内容となるように適切な語を選ぶために必要となる英文や英単語を見つける力に課題がある。(通し番号 21、22)

(通し番号 21、22)

(3) 裕介のスピーチを聞いた A L T のエドワード(Edward)さんが、来日予定の友人にそのスピーチの感想をメールで送りました。( ① ) ( ② )に入る、最も適切な語を本文中から 1 語ずつ抜き出して書きなさい。

Do you know capsule toys? There are machines selling them at many places in Japan. Capsule toys are good for presents because they are good quality and they are ( ① ). One of my students likes capsule toys very much, but he uses a lot of money to ( ② ) his favorite items. When you come to Japan, you should look for some, but don't use too much money!

## 2 今後の授業に向けて

- (1) 単語、連語及び慣用表現等の言語材料の定着を図るために、語順や修飾関係等における日本語との違いを説明する活動や、定着させたい表現の一部を別の語句に変えて、様々な場面で活用できるように、表現の幅を広げる学習を継続的に行う。
- (2) 日常的な話題について、互いに質問したり、意見を交換したりして、会話を継続・発展させることができるよう、「即興」で伝え合う活動に継続的に取り組むなど、今後も表現力の向上に努める。
- (3) 様々な題材についての英語を聞いたり読んだりして、概要を素早くとらえる活動や、目や耳で理解した内容を基に自らの体験や考え等を英語で発信したり、具体的な課題を設定し、賛否を明らかにしてその理由を伝える活動を積極的に取り入れたりするなど、「聞く、読む、話す(やり取り、発表)、書く」の 4 技能 5 領域を統合した活動を充実する。



# 令和元年度 富山市民大学閉講式・特別講演会

1 日 時 令和2年2月14日（金）  
午後1時30分から

2 会 場 富山市民プラザ アンサンブルホール

3 日 程

○ 閉 講 式 午後1時30分から

- ・ 開式の辞
- ・ 市民大学の歌 合唱
- ・ 閉講のことば
- ・ 来賓、市民大学講師の紹介
- ・ 講師代表あいさつ
- ・ 受講者代表謝辞
- ・ 閉式の辞

○ 特別講演会 午後2時から

演 題 夢は叶う！ ～世界一の頂からみえたもの～

講 師 佐伯 知彦 氏（立山ガイド）

令和元年度 富山市民大学

入場無料  
申込不要

# 閉講式・特別講演会

日時 令和2年2月14日(金)

閉講式 13時30分から

特別講演会 14時から(終了15時30分)

会場 富山市民プラザ 4階アンサンブルホール

演題

## 夢は叶う！

### ～世界一の頂からみえたもの～

富山県人初 エベレスト登頂成功

講師 立山ガイド

さ え き と も ひ こ  
佐伯 知彦 氏

プロフィール

立山の麓、芦峯寺生まれ。立山ガイド四代目平蔵として、グリーンシーズンは登山ガイド、スノーシーズンはスキー学校を生業とし、一年を通して“山”と“雪”をテーマに活動している。

立山の伝統を引き継ぎ、現代の仲語\*となつて、“立山曼茶羅”に描かれた歴史や文化に触れるオリジナルツアーや、大自然の中を滑走するバックカントリーツアー等を企画案内している。\*仲語=かつて立山信仰登拝の案内人

曾祖父の初代平蔵は、立山案内人組合(現立山ガイド協会)初代組合長。剣岳の「平蔵谷」に名を残す。

職業

NPO 自然遊育サポートとやま 山賊倶楽部 代表

立山ガイド 立山ガイド協会所属

冬季:立山アドベンチャープロスキースクール 校長 など



■主催/富山県教育委員会

■お問い合わせ/市民学習センター ☎(076)493-3500

その他2

# 岸派 の絵画

2020年

2月8日[土]—4月12日[日]

開館時間：9:00～17:00（入館は16:30まで）

休館日：2月26日（水）

観覧料：個人大人210円、団体大人170円、高校生以下無料

主催：富山市教育委員会（富山市佐藤記念美術館）



**富山市佐藤記念美術館**

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)  
TEL.(076)432-9031 FAX.(076)432-9080

岸駒「琴棋书画图屏風」(部分) 江戸時代 当館蔵



1

## 岸派の絵画 2月8日[土] —4月12日[日]

越中ゆかりの画人、岸駒を祖とする岸派は、江戸時代後期の京都画壇で円山派や四条派とならんで勢力をほこり、その活動は明治期まで続きました。

開祖である岸駒は、母親の実家が富山県の岩瀬にあったと伝えられています。青年期までを加賀国金沢で過ごし、安永八年(1778)頃に京都に上りました。天明四年(1784)に有栖川宮家に入りを許されて出世の機会をつかむと、やがて諸派を折衷した表出性の高い画風を確立して人気絵師となり、一族の他に河村文鳳、横山華山など多くの門弟を擁する岸派の祖となりました。

その後、岸派では岸駒の長子・岸岱や、岸駒の養子となった岸良らが祖風を受け継ぎ、諸派に対抗しました。幕末期になると岸連山が、新たに四条派の画風を加味して流派に新生面をもたらしています。また、連山の養子・竹堂は、明治期に流入した西洋画の視覚表現を採り入れ、時流に沿った多彩な画風を展開することで画壇に名を残しました。流派としての岸派の活動は、実質的にこの竹堂をもって、明治時代中頃に終焉を迎えることになります。

本展では、岸駒とそれに続く絵師たちの作品を、伝来する絵画資料をまじえて展示し、江戸後期から明治にかけて日本画壇に足跡を残した、岸派の画業の一端を紹介します。



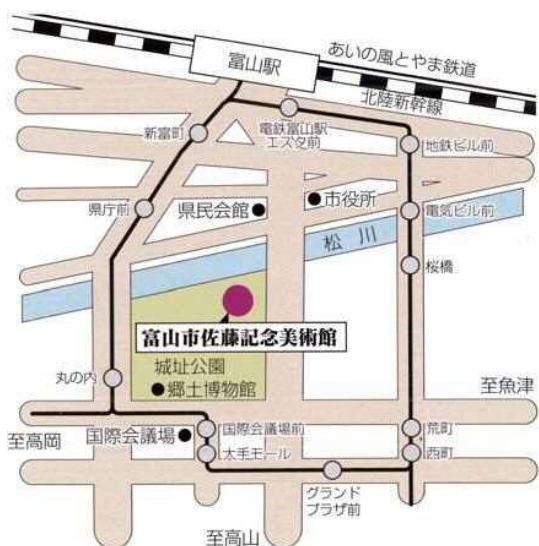
2



3



4



### 展示解説会

日時 2月15日、2月29日、3月14日、3月28日 計4回  
いずれも土曜日、14:00より1時間程度

講師：当館学芸員

会場：当館展示室

定員：30名(申込不要)

参加費：無料(ただし別途観覧料が必要)

### 交通案内

- 富山駅から徒歩15分
  - 市内電車「国際会議場前」下車 徒歩3分
  - 地鉄バス「城址公園前」下車 徒歩2分
  - 富山空港より連絡バスで20分
  - ぐるっとBUS「城址公園」下車 徒歩2分
  - 北陸自動車道 富山I.C.より車で15分
- ◎当館に駐車場はございません。最寄の駐車場(有料)は城址公園地下駐車場です。

- 1 岸駒「琴棋書画図屏風」江戸時代 当館蔵
- 2 岸岱「富士群馬図」当館蔵
- 3 岸連山「雪中鴨図」江戸時代 富山市郷土博物館蔵
- 4 横山華山「琴棋書画・陸羽煎茶図屏風」江戸時代 当館蔵



## 富山市佐藤記念美術館

〒930-0081 富山市本丸1-33(富山城址公園内)  
TEL. (076) 432-9031 FAX. (076) 432-9080

